

課題

- 【小・算数】 ①児童が問いを見いだすことができない。
②見いだした問いを生かして学習問題を設定することができない。

手立て

問題をあえて「途中」までしか書かない。

具体例

POINT①

素直に取り組むとつまずいてしまう状況をつくる。

□mのリボンがあります。
4mずつ切り分けます。

あえて書かない

式) $13.5 \div 4 = 3.375$

```
  3.375
4) 13.5
  12
  ---
   15
   12
   ---
   30
   30
   ---
    0
```

□は13.5だから、この問題なら、昨日習ったからできるぞ！
割り進めれば いいから、 $13.5 \div 4 = 3.375$ だ！

あれ？ 計算はできたけど、何を答えたらいいか聞かれて
ないよ？

あ！まだ問題文が途中なのに、勘違いして計算を
始めちゃったんじゃない？

既習事項が身に付くと、その知識・技能を使いたくなります。その気持ちを
あえてミスリードして「あれ？」「おかしいな？」と問いを見いだせるようにします。

POINT②

問題文を最後まで提示し、児童が問いをもった時のつぶやきや
素朴な疑問をそのまま黒板に残す。

□mのリボンがあります。
4mずつ切り分けます。

4mのリボンは何本切れて
何mあまりですか？ ←追加した問題文

式) $13.5 \div 4 = 3.375$

```
  3.375
4) 13.5
  12
  ---
   15
   12
   ---
   30
   30
   ---
    0
```

あまってない

が、い数にする？
375 がびみょう

0.375m

↓ × 100

37.5 cm

ちがう気がする

3本あまり 0.375m？
四捨五入する？

$13.5 \div 4$ が割りきれたにもかかわらず、
あまりが聞かれていることに児童は
驚きます。「あまってない」「0.375m？」
「概数にする？」など、児童が見いだした
問いについて話し合う中で、
「あまりがいくつになるか」に焦点化して
いきます。

それを生かして本時の学習問題を
「あまりはいくつになるのでしょうか？」
と設定することができます。